（別紙２）

審 査 の 結 果 の 要 旨

氏 名　　谷内　悠

本論文はジェダイズム、空飛ぶスパゲッティモンスター教（スパモン教)、インテリジェントデザイン論（ID 論）など、宗教とフィクションの狭間に位置するような最近の現象に光をあて、それを人間の「信」のあり方という視点から分析したものである。序論、第一部５章、第二部３章、第三部３章、結論、補遺ならびに参照文献一覧からなる。

第一部で先ず当該分野における先行研究を検討し、上述の宗教現象を整理するために、「テキストが歴史/フィクションに基づく」と「人がテキストの内容を信じる/信じない」という二つの座標軸により四つの類型を設ける。ジェダイズムはフィクションのテキストの内容を実在として信じるタイプ、ID 論は歴史に基づくテキストを実在として信じるタイプ、スパモン教はテキストはフィクションであるが、人がその内容を信じるか否かは幅があるタイプとして類型化される。第二部では、聖書創世記の記述をそのまま信じる創造論と、そこから発展して、複雑な自然は知性あるデザイナーの存在を想定しなければ説明できないとする ID 論、それに対するアンチテーゼとして現れた新無神論を順次、検討し、基本的には宗教に基づく ID 論が科学的な論証によって真理性を獲得しようとしていること、逆に科学者の無神論は大衆レベルではスピリチュアルな比喩（例えば「自然への畏敬の念」）の部分が受け入れられていることが明らかにされる。更に、創造論へのパロディ的な批判として始まったスパモン教が単なるフィクションであることを越えて、本当の意味での宗教として機能し始めていることが示される。

このように本論文が対象とする宗教は、架空と真実の境界が曖昧であるか、その境界を越えるという性格が強い。なぜ、そのような現象が起こるのか、その機制は何であるのかを分析哲学の手法を用いて論じるのが第三部である。アメリカの哲学者、クワインの概念図式という考え方を用いた上で、著者はフィクションと実在の概念図式は異なり、その概念図式のスイッチの切り替えを行っている「メタ概念図式」が存在するという仮説を提出する。メタ概念図式は、日常的な生活世界に基づき、専門分野的な諸概念図式を支えるが、同時にそれは概念図式の影響を受けて変容する。先述した、ID 論が科学によって創造説を証明することを志向するのは、科学の概念図式の影響を受け、我々のメタ概念図式が変容しつつある、一つの表れであるというのである。

本論文は、最先端の宗教現象に注目し、それを哲学的な理論により分析した点に最大の特徴がある。この場合、具体的な現象を扱った部分と理論的分析の部分には一定の乖離があり、必ずしも議論がかみ合っていない憾みがある。しかし、本研究はこの分野での日本における初めての本格的研究であり、かつ個々の議論は考え抜かれており、着実である点は高く評価できる。よって審査委員会は博士（文学）を授与するのに値するものと判定した。